

徳国  
 下会  
 東接記後篇  
 三



|     |
|-----|
| ル 3 |
| 475 |
| 5   |









さいもんくさかきさひのくみゆるうへは地小雲をさるる  
 先とていそぎ近ゆきの遷近おきたひ小雲はるに何乃  
 雲さあき雲くのごくおれは世奥を山神の居るうへ人の入  
 る事と忌嫌ひくかゝる雲霞あつちうへうんとおきて後ハ  
 奥深く入る者ありとては事成はは法う合ひふ飛驒のさ  
 のくを度不在うといふ振それ山林の雲ゆるまは山と谷の  
 日更おるまて人の形は形小足ゆらものも赤州の申ふ人の性来  
 さらり谷は小人の形もくまのあまを谷成志がけり色ハ靉  
 色たのごくけ道と海う別ぶる人かた不登りくすやれどもあ  
 人も業くふまのまことあやむ事なりとまうおのまてハハ

好く測試く後日の考の二冊とせんと旅中もも申ふ(五)測量の  
 の雲と形小まて造りゆくと携へゆらまて測りたり小先嶺中  
 富山五々尾る前山極量地をさる事三々度半強之出羽は秋田  
 四十度半と奥州津極旋り関四十度度四分同考来四十度  
 七分同三馬尾四十度度四分南部盛岡の四里小瀝氏と云  
 西あまけ西四拾度七分と詳おるる屋ハ日本極北の地あるに  
 寧精参小測りて公屋と不遠西四拾度度四分と携南地地の佐  
 井ヲコへのまはハと鼻大にゆよ半ハ四拾三度度半をさる  
 ち海ゆらゆらゆる色は海に波おけ極地ハ空をさるる海候  
 皆轉地の砂漠おはるるもあべに去のゆまも四拾度度極の飛



色ハ正初漢之四十式三度の内分なり又日本中極東の  
地ハ大隅佐田岬之是三十度弱の西之是と以てみま八日  
本之南北十式三度の内分なり又日本中極東の  
人の志多し二十度強之江戸も三十度強之唐土も三十度強  
長安杯三十度の地と云齊魯二十六度の西と云謀を度公  
あつても日本中と中和の西二十度強の國ハ正の氣候正  
しつと人おも聖賢成す草木もよく陽氣もあつて水ハ  
生氣温暖あつと物成とつと石もよく柔なりと山岳もあ  
りつと穂之北のまは生氣冷しと物成凝り水もよく  
毛氷り山岳も峨くと峰えくまづ陰陽蒸蒸の地極

二 無名之島

越前西敷加々多島小島ありて其里計常官系後乃繩  
間村といふあり海をめぐりては此村の庄屋と無名  
之島を属といふ此家ハ無名別當真盛が生きたる本ありと我々  
財をり今小代々家お續して無名之島と名家家柄あり西の  
庄屋と勤くまを遺物今小島ありと云海島近部の  
百姓も浮沈盛衰あり其百年の家と保てる者多し余も勤  
まふ未治せし時彼家次も其く真盛が舊物とつとつと  
心ひつと常官の地りも其よいつとて事とつとの記







るものとするの事なるは皆にけり物たりし事なる事なる事  
 其園子の創記とあり小寺中不戒人の記たり船その海を  
 小寺海乃の沖津の沖とあり時一むの事なる虚なり  
 被船とてあり船匠大勢と見ら船のひきときと元  
 かくとふあり意不整切と焼べしと申れ今この事  
 頭整切あり大不焼し息氣や小の舟うく六波羅を  
 せしむらち小不焼とて載しとて是も亦然しと  
 半へ庫志の事なりとて是は執飛の登り必雷の事なり  
 舟成持るし其の伏とも雷なるとて由日本とて  
 龍と雷のおおむとてゆす余を以阿棠院の王キテ

イルとゆりてさしかりの事なる事なる事なる事なる事  
 と車以まりし事なる事なる事なる事なる事なる事  
 登る勢ひありし事なる事なる事なる事なる事なる事  
 上へおおむとて小寺の中とてどくどく況や天地の事  
 ありし事なる事なる事なる事なる事なる事なる事  
 いふべかりと

黄鐘調

撞鐘とて其鐘の調子不整なりとて兼好は徒然草より  
 大坂の天王寺の六時堂の鐘はを鐘乃調りたるなり  
 余と天王寺の鐘なる事なる事なる事なる事なる事



正一年... 播州の... 徳太子の...  
 徳太子の附... 又越前... 常...  
 一... 其銘文曰  
 大和七年三月日... 合入金七百七十三...

大和七年三月日菁州蓮池寺鐘成内節傳  
 合入金七百七十三近古金四百九十八近

加入金百十近  
 成典和上 忠門法師 緋系甜法師  
 上座 則忠法師 都乃法昧法師  
 郷村主 三長手 朱蕉吹奈  
 作報舎 室清軍師 龍碎軍師  
 史六 三忠舎知 行道舎知  
 成傳古 安海哀大舎 哀大舎  
 節州抗 皇龍寺 覺明和上  
 かくの... 朝録文... 寺僧...



入あつる必字一と心ひし言葉名の為よとての獄を登  
りて夜よ入る世すおゆりりらバお紙さく入後の  
とてまうがゆえのわうまうしうくけうくらふは後す  
定紙穿てゆる苦後の袖おせんきあるべし種と精て後  
らう定紙穿て穴の大小小らうて調子を伝すべし苦後小  
合らるふまうと穴て廣先苦後の定中とて穴とやふし全  
く種と苦後小種んと欲を六粒十通務改るとるさう年小  
る年ハ難るべし波西園寺の種紙幾なと種入れしと  
初らる全く種んとやのし麻さるべし流らう穴紙穿たんとて  
あつる調子一はさば古紙後よりて穴あるハ皆必苦後の

調子るるべし尾上方田山の流け書文の種さく古人の紙用ひ  
し種とらんえらうとてさう世を傍後律の半石書用まらう  
ては知るゆとてさう又種ハ苦後小種といふのだるさう  
してみらう小種さうおゆらう小種小穴あるハ奇妙くゆと  
とあるゆの為とてさうといふの紙さるくともあつるさうや  
かゝるゆのさうはこと日本中ハ苦後の調子けうとてさう  
流紙いさうとてさう又穴ある種と外まで見るゆらう  
余と尾上  
れ種とてさうは穴あるまといぬくさうさう書文の流紙  
刀田山の流紙ゆとて種あり調子の為小せし書紙悟らう今  
らうは種紙揚る人定紙て穿たらまは苦後の調子かやんゆ



いしんやまをいひたりて一又或くの括州南長柄村西満寺の鐘あり  
鐘ありいひ一是れ鐘をいひていすこくす鐘あり  
や又一やある神道志の神前の鐘ハ双調乃おがうとて法方  
赤き糸もす調子小針の鏡あり一う余りかきる人新小鐘と  
掛り不敷十度鐘は一もほひお双調の宮中五六叶いざし  
うかむとてあくく双調小をこし鏡成唐う減ら一々双調小合と  
ころ是もと又後鐘小成穿てらうとておひたり一余り鐘と  
一いづくとていづくもあまがうをいづくも鐘をいづく  
古鐘ふあくは事とてかう南長柄の鐘とていづくも南長柄北  
朝の北燕の鐘とていづくも律真の鐘とていづくも感心一又とて

以黄鐘調の鐘成揚こりく數十なる小なるにて法とていづく  
強も定もあらざる事成かまうとていづくもいづくも小音  
律の虫小ありたりなきは此記の畧なり

第本

坂上是則の如く小鐘も亦や鐘もを小もあまがうをいづくも南長柄北  
少もあまがうをいづくもあまがうをいづくも一第本といふ本は鐘は  
まを系とすあうなるやいづかえりうとていづくも源氏お  
法成りも第本のを小一鐘の鐘とていづくもいづくも鐘とて  
いづくも其事録り奇怪なるもいづくもいづくもいづくも  
いづくも一信州の鐘とていづくもあまがうの鐘とていづくも東遊記



乃本曾街道の邊小妻子と云あり其妻子の聲一と本  
街道と雖も同道小入るをくら飯田の城と出るは道ぬく  
其百十里津山並谷計を越者の乃をよ細く蘭原水  
杯のよ在所成るく幕谷といふありけ幕谷といふ  
くく幕谷と云るをく本幕谷と云ふは味のもおなり  
けき王平勝負平杯のよがの平坦の地あり相け幕  
谷の乃ろ右の方りを深くたまり谷を感ふ谷川の音  
すゆ其谷成お越しく向ふ雜樹深くけしけ成るなる  
らあり其心ろ七八分目ともらお程はもこの木のさくたる  
そ本秀てたゆももこの木は倍くたの字ふ本幕谷

か小成るたる本にやきくは葉周山あり幕谷の土も  
るも似たり其もこの木と幕谷と似る雜樹成る申ふ  
格ふ小秀るくまざれりすく尺ゆ是即ひりりりたるふ  
幕谷ののともさあかめ白く尺ありの其木のふ  
けりかんら樹に新をすくと幕谷の木のさあてりり  
るくく小在りともさあかめ白く尺ありの其木のふ  
幕谷ののともさあかめ白く尺ありの其木のふ  
お後ののともさあかめ白く尺ありの其木のふ  
すりハ廿丁斗とも福とてり取の百姓のの信くハ天照  
左神の伊弉諾とてり神本とてり云又今とてり者の

乃本曾街道

九



のついでにひらくも、奥羽の金貨流通の通り、  
あるまじうと、ひらくも、奥羽の金貨流通の通り、  
あるまじうと、ひらくも、奥羽の金貨流通の通り、  
あるまじうと、ひらくも、奥羽の金貨流通の通り、  
あるまじうと、ひらくも、奥羽の金貨流通の通り、  
あるまじうと、ひらくも、奥羽の金貨流通の通り、  
あるまじうと、ひらくも、奥羽の金貨流通の通り、  
あるまじうと、ひらくも、奥羽の金貨流通の通り、  
あるまじうと、ひらくも、奥羽の金貨流通の通り、  
あるまじうと、ひらくも、奥羽の金貨流通の通り、

何色かの奇跡の種を、おぼくは友人、  
おぼくは友人、おぼくは友人、おぼくは友人、  
おぼくは友人、おぼくは友人、おぼくは友人、  
おぼくは友人、おぼくは友人、おぼくは友人、  
おぼくは友人、おぼくは友人、おぼくは友人、  
おぼくは友人、おぼくは友人、おぼくは友人、  
おぼくは友人、おぼくは友人、おぼくは友人、  
おぼくは友人、おぼくは友人、おぼくは友人、  
おぼくは友人、おぼくは友人、おぼくは友人、  
おぼくは友人、おぼくは友人、おぼくは友人、

善光寺

信州善光寺ハ格別の霊場也ハ其の靈なる信する者多クシテ法皇  
より氣治の人多クシテ堂塔も度々大ニ觀望す其寺の形  
寺也本堂五層あり其堂は二十六間横幅十九間柱  
皮もさしてハ棟作りハ其形皮がさめり事ハ信州金作大  
西ゆゑありてハ凍結する由あるありて其の町並ハ  
瓦葺といふものなり 切立門より中堂まで或百間の長石  
おと見え事ハ善光寺小堂といふハ中堂小通夜とてハ我

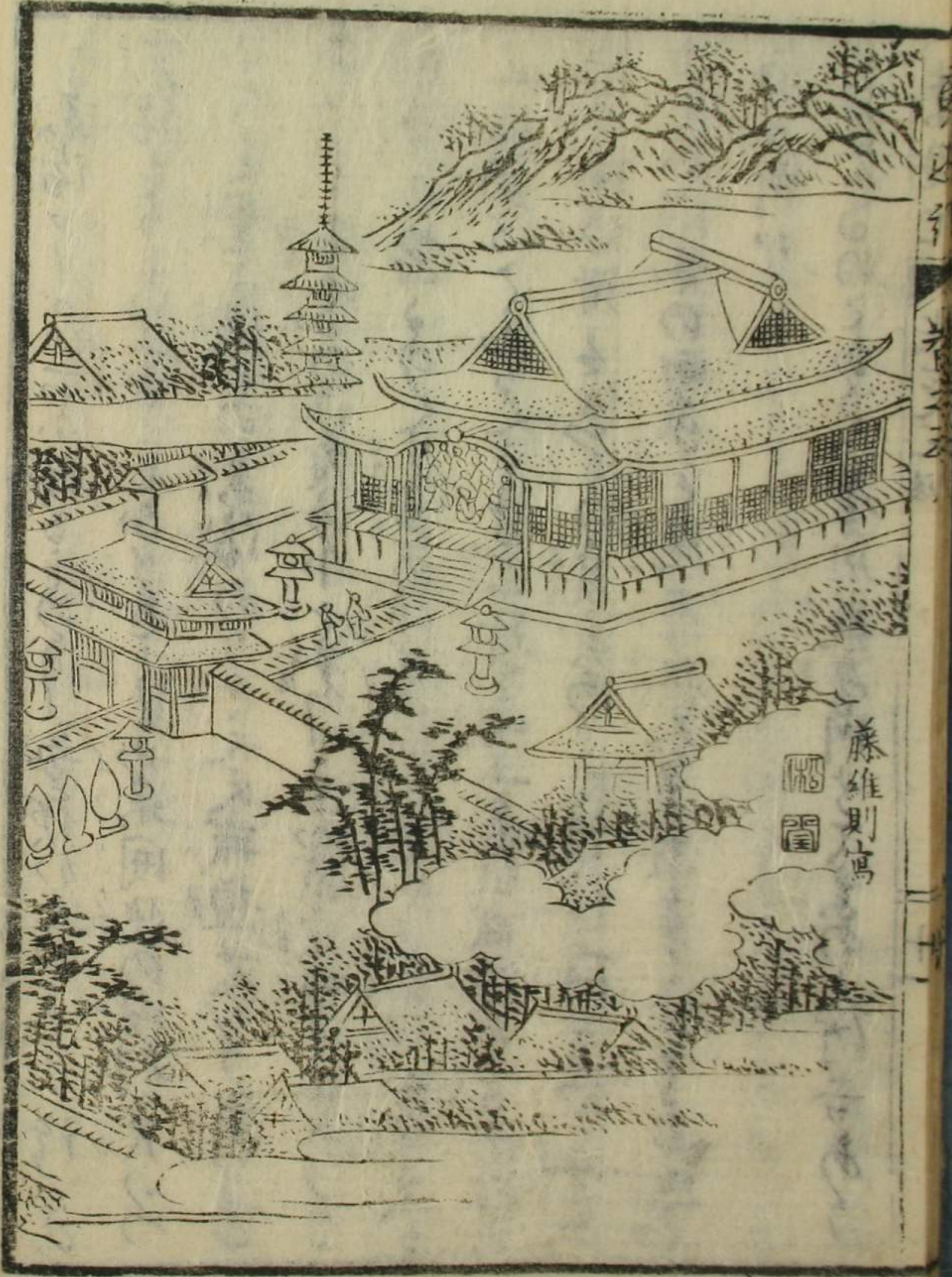
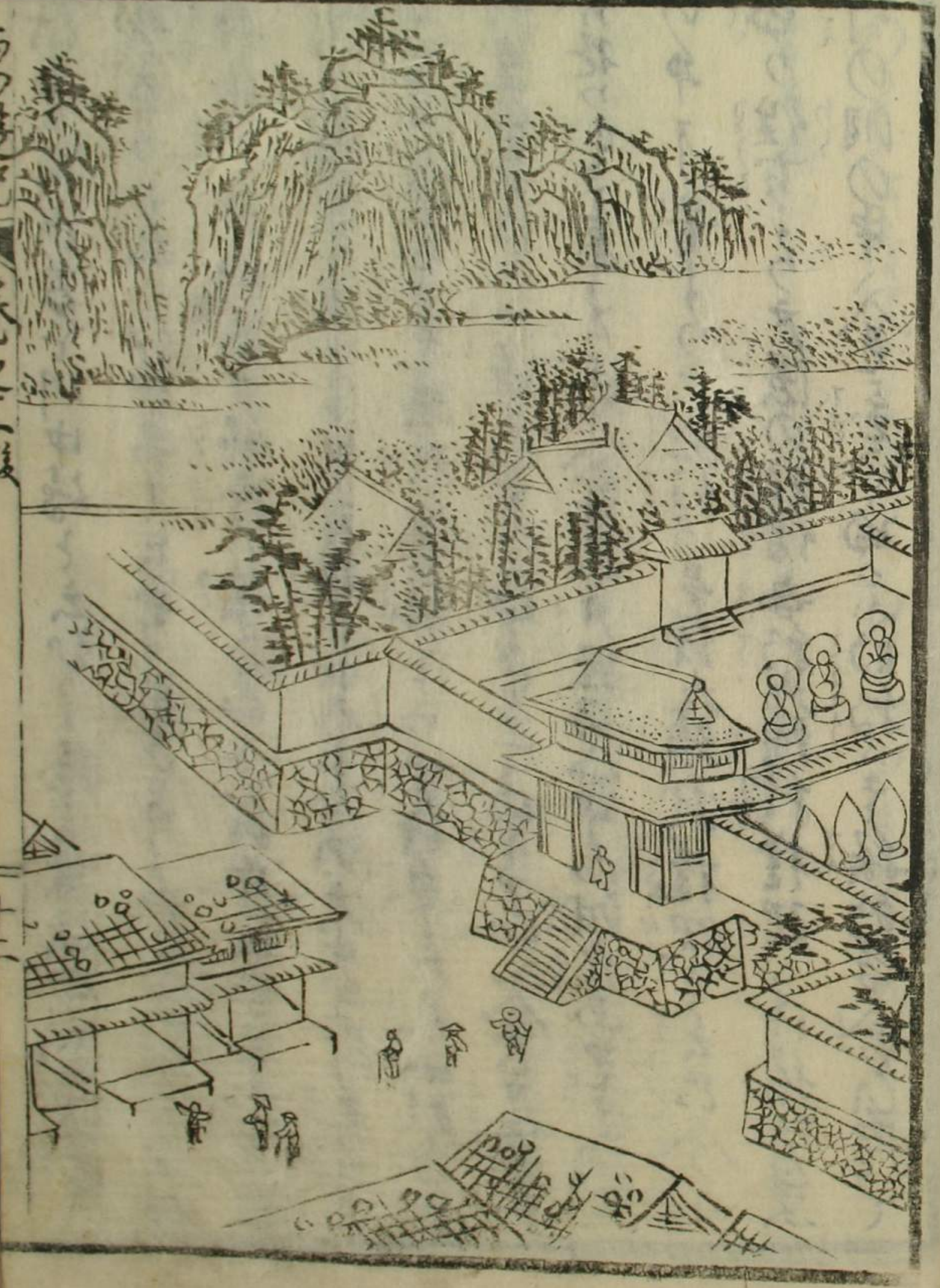


親者といふ人の死すべしむと再び通すこと毎夜輪廻も通  
教くもろ余もあつて通夜を小僧も度々堂ふあつて  
ふりもさばむおぼふく燈の光るも細くとも親もささふ  
はんく次念佛の香遠小僧をさすといふ時傍より初の花かん  
くもさすあひのよが初夜ととき四つをさす夜すもあつた  
中らつとめく夜ふくもあつた數十百人ふも是戒止者の事  
あつともおむ刻とらひ小僧必々の用帳ある寺僧達の帳  
らりもあつて戸帳と開く帳とてあつて用帳を夜にさぬ  
火の親ハかのづつ一人もあつた堂に度々くも通夜すといふ  
る花といふ時信のくも後と流するも余も信方の仏流す

も親者といふ人の死すべしむと再び通すこと毎夜輪廻も通  
教くもろ余もあつて通夜を小僧も度々堂ふあつて  
ふりもさばむおぼふく燈の光るも細くとも親もささふ  
はんく次念佛の香遠小僧をさすといふ時傍より初の花かん  
くもさすあひのよが初夜ととき四つをさす夜すもあつた  
中らつとめく夜ふくもあつた數十百人ふも是戒止者の事  
あつともおむ刻とらひ小僧必々の用帳ある寺僧達の帳  
らりもあつて戸帳と開く帳とてあつて用帳を夜にさぬ  
火の親ハかのづつ一人もあつた堂に度々くも通夜すといふ  
る花といふ時信のくも後と流するも余も信方の仏流す



南  
山  
寺  
三  
院



藤  
維  
則  
寫





け二ツの川の方と川中橋と云む。一伝云謙伝の女我師あり  
秋あり。一西八橋系し云。毎る筋の。一根之。又けを。色。疑  
推し。あり。更科。あり。疑。於。ハ。傳。さ。こ。こ。の。部。之。分。目。小。堂。の。面  
ア。ミ。堂。の。を。も。小。る。事。有。横。十。四。五。斗。の。大。名。あり。を。也。一  
ア。ミ。一。く。尺。あり。是。姓。於。の。古。所。こ。ら。の。又。け。を。一。り。東。山。れ。方。ス  
六。里。の。ま。と。小。戸。隠。山。城。の。け。も。ま。て。の。さ。し。こ。余。小。戸。隠。山  
ハ。花。り。と。こ。あ。り。の。小。中。小。戸。隠。の。中。山。洞。穴。あり。と。洞。穴  
の。中。一。り。昔。一。り。大。地。住。り。是。姓。九。頭。於。於。於。現。と。云。只。今。小  
あり。住。古。一。り。戸。隠。の。社。僧。毎。九。頭。於。於。於。現。ハ。傳。指。と。傳。小  
件。の。洞。の。中。入。見。と。金。と。海。系。的。的。の。一。根。於。於。於。合。の。所。り。て

あ。と。と。け。後。現。の。ま。後。り。と。と。一。り。の。ま。葉。小。け。く。一。根。一  
と。云。海。小。奇。吳。の。事。あり

祇行湖

伝云。祇行の湖。と。周。廻。二。三。里。の。小。湖。一。り。後。き。と。と。乳。山。ま。ま  
の中。小。あり。と。景色。い。と。双。の。地。一。り。け。湖。ま。ま。一。り。湖。と。富。士  
山。の。小。面。と。見る。富。士。山。崎。を。め。て。富。永。山。は。か。ん。と。富。士。の  
形。を。け。は。と。と。り。ん。ら。も。又。事。あり。や。と。想。け。湖。小。世。傳。の。り。あ。七  
不。思。議。の。ら。の。あり。と。中。小。と。傳。又。奇。妙。の。の。こ。す。と。け。湖。水  
お。お。お。ま。ま。の。お。ひ。ま。一。面。の。水。と。ひ。る。厚。さ。數。尺。小  
及。の。金。鉄。の。ご。と。く。り。て。平。地。小。吳。め。一。り。お。お。月。一。り。聖。年







東遊記 卷之三  
あるところ、魚の獲れぬあり、またあるところ、天竺川の源に  
流るる水、流るる水、おぼろしく、魚獲ふ多し、  
けり、利はあつたなり

青岡志述

天明卯年、乃、凶作、小奥、別津、南、部、最、餓、饑、して、足、腰、の、ま、る、  
者、の、四、方、小、ま、る、て、食、物、を、お、し、羽、別、秋、田、津、西、の、う、た、げ、の、饑、人、  
の、身、を、事、救、む、く、秋、田、の、地、に、亦、凶、年、の、事、な、ま、り、救、ひ、足、ら、ず、あ、  
り、し、に、饑、人、溢、れ、又、青、岡、小、奥、の、路、に、饑、人、中、に、押、あ、ひ、  
や、り、食、を、と、る、者、の、ま、ら、ず、地、に、饑、死、す、る、小、儀、で、青、岡、  
の、く、も、各、身、之、の、限、り、か、と、り、て、救、ひ、一、事、人、を、申、お、こ、す、て、あ、

り、し、小、儀、の、一、の、論、本、今、志、述、の、一、の、者、本、の、青、岡、志、述、の、中、に、い、て、  
一、の、者、一、の、の、行、も、あ、り、く、を、さ、し、以、後、者、と、い、く、た、ら、  
耕、他、一、の、後、世、一、の、名、い、く、元、身、志、述、の、途、く、い、る、と、身、代、の、限、り、  
出、し、饑、人、の、救、ひ、を、た、に、於、難、を、録、死、と、す、る、小、志、の、い、ど、あ、り、  
の、田、畑、等、小、諸、を、な、し、を、し、て、一、の、者、推、ひ、く、ま、力、の、限、り、救、ひ、  
を、な、す、る、事、も、又、い、ま、ま、り、と、す、る、女、も、一、の、自、分、の、衣、被、の、れ、と、さ、す、  
拂、ひ、て、お、し、く、る、不、明、れ、衣、被、後、小、ゆ、ら、の、く、を、お、し、く、る、ま、り、一、の、  
け、ゆ、ら、ゆ、ら、一、の、ま、り、が、或、日、け、ゆ、ら、の、衣、被、も、賣、り、て、救、り、ん、と、い、ま、  
ま、り、の、ま、り、女、の、持、た、衣、被、を、と、り、愛、する、もの、あり、小、志、と、も、  
賣、り、て、饑、人、の、救、り、ん、と、さ、す、一、の、者、の、事、を、う、た、ま、り、る、男、







乞食の如くして少くも衣履はすまらざるも食非人小僧の如くも  
 別小行少くもありと名取はまざる人なりと皆品海塚の如  
 尚との如く呼名をるけり尚彼饑饉の時露骨の所くも  
 在りしものもる家なほぶづらけてか系おそき慈悲て加  
 へんとく頻り小教化し昼夜けりていとまきる  
 毎日に饑くと病むも小兼くせり尚と信仰の人追か加  
 へて世話をし始終饑く小支施とてその成けりりる小  
 凡米百八十俵金六十兩といはれ尚の力とて施し兼けり尚  
 くハ小物成を事なく言限のりけりてゆりの行をせ  
 次法儀望園の傍ありは法くともは信仰帰依して皆く

毎日の為錢と席附して饑く成救りせりけり三幸露骨よりは  
 思ふ川舟の乗合由て露骨のくくは信仰と梅屋に  
 けり夫立の事よて書付ゆきり流小露骨は在肉と稱し  
 て茶穀は心のまよして元来大富國の富りけり成小人の心  
 温和ゆてかると慈悲のりともありしとてさへ



